

東急車輛製造株式会社 殿

改造概要等説明書（改造自動車等審査結果通知書）

- 指示事項 1. 本改造車両は、製造番号TD41J62S-G003の1台とする。
 2. 本車両は、全幅(002)車両総重量(004)軸重(005)及び、隣接軸重(056)については基準の緩和を必要とする。
 3. けん引車自動車は、車名ニッサンディーゼル型式ADG-GW4XLG 類別006（第5輪荷重16,000kg）で検討した。

主要諸元比較表

(試作車・組立車)

項目	標準車	改造車	基準	項目	標準車	改造車	基準
車名		東急	—	乗車定員 人			—
型式		TD41J6T2S	—	最大積載量 kg		27000	—
自動車の種別		普通	—	前前軸重		15620	—
用途		貨物	—	前後軸重			—
車体の形状		セミトレーラ	—	総重量		12235	≤10t
燃料の種類			—	後前軸重			—
原動機型式			—	kg 後中軸重			≤10t
総排気量 cc			—	後後軸重		12235	≤10t
			—	計		40090	≤28t
長さ m		11.840 (11.390)	≤12 m	最大安定傾斜角度 右		※ 57	一般≧35°
幅 m		3.000	≤2.5m	左		※ 57	その他≧30°
高さ m		1.740	≤3.8m	前前軸			—
軸距 m		9.050 + 1.200 = 10.250	—	前後軸			—
輪距	前前輪		—	タイヤ 後前軸		235/70R17.5 136/134J	—
	前後輪		—	サイズ 後中軸			—
	後前輪	2.440	—	後後軸		235/70R17.5 136/134J	—
	後中輪		—	積車時 前前輪			—
	後後輪	2.440	—	タイヤ 前後輪			—
室内又は荷台の内側の寸法	長さ m	6.000	—	荷重割合 後前輪		72.2	≤100
	幅 m	3.000	—	後中輪			≤100
	高さ m		—	% 後後輪		72.2	≤100
車両重量	前前軸重	4150	—	積車時前輪荷重割合			≥18.20%
	前後軸重		—	リア・オーバーハング		1.140	≤(1/2)
	後前軸重	4470	—	m			11/20, 2/3L
	後中軸重		—	荷台オフセット m		4.100	—
	後後軸重	4470	—	最小回転半径 m		※ 11.6	≤12 m
	計	13090	—				

能力強度等検討

制動能力	踏力 — kg 60 km/h 39 m	車枠強度	$\sigma_B / \sigma = 4996 / 1029.5 \times 2.5 = 1.9 > 1.6$
	空気圧 637 kPa	車軸強度	東急 TD50J3T2 型セミトレーラと同一
推進軸	回転数 NC / N	操縦装置強度	
		緩衝装置強度	東急 TD50J3T2 型セミトレーラと同一
強度	σ_B / τ	制動装置強度	東急 TD50J3T2 型セミトレーラと同一
		連結装置強度	東急 TD50J3T2 型セミトレーラと同一

注1. (試作車・組立車)の欄には、該当するものを○で囲むこと。

注2. 能力強度等検討欄は、該当しないものは—、省略したものは×を記入すること。

注3. ※印は、ニッサンディーゼル ADG-GW4XLG 型トラクタと連結時の計算値を示す。

⑬ (抄) テーブル
M763-586
R004106

構造等の概要

目的	建設機械の安全輸送をはかるため、中低床式セミトレーラとして新たに製作されるものである。
車枠及び車体	全体の構造は梯子型で主レールとアウトリガーおよびクロスメンバとは電気溶接で組まれており前部下面にキングピンを、後部に車軸装置を取り付けている。
原動機	
動力伝達装置	
走行装置	東急 TD50J3T2 型セミトレーラと同一。(12自審第651号 新型自動車第16886号) 前後方向に揺動するウォーキングビームの両端に死軸式の車軸を揺動するように取り付けられたもので、路面の変化に対応接地できる構造となっています。
操縦装置	
制動装置	東急 TD50J3T2 型セミトレーラと同一。(12自審第651号 新型自動車第16886号) (主ブレーキ) 気圧内部拡張式 (駐車ブレーキ) スプリング式 ABS装置一式
緩衝装置	東急 TD50J3T2 型セミトレーラと同一。(12自審第651号 新型自動車第16886号) ウォーキングビーム方式
連結装置	東急 TD50J3T2 型セミトレーラと同一。(12自審第651号 新型自動車第16886号) 第5輪方式
燃料装置	

注 変更のない事項については、斜線を記入すること。